

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	学校評議員運営事業	会計	一般会計	事業No.	684	施策順No.	22-017
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-2-1-10-4		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	学校教育課		
施策	22 義務教育の充実			事業期間	開始	13	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	小中学校の学校						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		教育委員会が示した学校評議員の参画可能事業数(参加した日)		145	145	145	145	
	意図	・運営が円滑にできる。 ・開かれた教育ができる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	学校長が学校評議員の参画を求めた事業数(参加した日)	95	139	115	84	110	84	A
	学校評議員の小・中学校に対する提言数(参加した日)	60	92	99	28	25	28	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	学校評議員の事業数は目標回数とした1校/3回を越え、提言数も目標値に近づいている(21年度まではすべて参加した日で算出)							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ol style="list-style-type: none"> <li>平成12年1月の学校教育法施行規則の一部改正により、地域住民の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置づけるものとして導入</li> <li>学校評議員は一つの学校につき10人以内とし教育委員会が委嘱</li> <li>学校評議員の任期は1年で再任は妨げない</li> <li>学校評議員は校長の求めに応じて学校運営に関し意見を述べることが可能</li> <li>学校運営の取組について改善を一步進める形として学校運営協議会において研究を行い、保護者や地域の方々の様々な意見を的確に反映させるとともに地域に開かれて信頼される学校づくりを展開するために全校へ設置</li> </ol>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会制度の他団体導入状況の調査</li> <li>学校評議員の活用方法の研究</li> <li>保護者や地域の方々が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって教育の実現に取り組む</li> </ol>	学校評議員数 運営協議会研究校	113人 1校
23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校評議員の活用方法の研究</li> <li>保護者や地域の方々が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させるとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって教育の実現に取り組む</li> </ol>	学校評議員数	113人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		国庫支出金					
		県支出金					
		起債					
		その他					
		一般財源		265	190	198	
		計(A)		265	190	198	
		正規職員所要時間					
		臨時職員等所要時間					
		人件費計(B)			0		
		トータルコスト A+B			190		

4 事業に対する市民や議会の意見

・議会からは、学校評議員を活用して地域とのつながりを高め、地域人材の活用を効果的に行うようとの意見をいただいた。

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	学校の現状	施策の成果指標又はムツ指標	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合(小学校)	学校が楽しいと感じている児童生徒の割合(中学校)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	・子ども達の登下校の様子や家庭・地域での様子について貴重な情報や意見をいただいた。また、学校と地域のパイプ役となり地域に開かれた学校づくりのための貴重な意見をいただいた。			
	後期に向けた課題	・地域の声を広く反映させるために学校規模にあった評議員数地域事情も考慮しながら見直ししていくことも必要である。			
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・学校評議員としての職務や立場について、毎年、再任の方も含めて資料を提示し理解を得るようにしている。			
	後期に向けた課題	・より多くの人に関わってもらうことを考えていく必要がある。			
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・この制度自体は地域の方々の理解により運営されているものであり、開始当初から経費をかけて運営することを行っていない。(無報酬)			
	後期に向けた課題	・これ以上のコスト削減は不可能と思われるが、検討を要する。			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	・学校評議員の運営については、各学校の主体性を尊重する。市は細部まで関わらない。			
	後期に向けた課題	・各学校主体の運営を市が側面から支援していく方法で良いと思われる。			
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行政はどのような働き かけをしてきましたか、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	・まちづくり委員会、主任児童委員、PTA役員として学校に関わったことのある方又は地域の有識者など、様々な立場の方に学校評議員になっていただくことで、多様な視点から学校に対する意見をいただいた。			
	後期に向けた課題	・地域の様々な立場の皆さんから意見をいただけるよう、学校評議員があまり固定化されないよう配慮していく必要がある。また、各校学校評議員の年齢層も偏らないような配慮も必要である。			
全体を通じて	4年間の振り返り	・この制度により地域の声为学校に届きやすくなった。また、学校の地域に対する情報発信の方法も増えた。			
	後期に向けた課題	・子どもを地域で育てるということを今後、より進めていく上で、地域の声を学校に反映させていくことは必要であり、学校評議員制度はますます重要になってくる。			

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------